

前立腺がん

のこと

前立腺がんは、男性の膀胱のすぐ下にあつて尿道を囲む前立腺にできるがんのことです。欧米では、男性のがんの中で発生率がトップ。日本でも急増しており、2011年には胃がんに次いで第2位です。

■ 男性の部位別がん罹患率(10万人あたり)
(全年齢2011年)



資料:国立がんセンターがん対策情報センター

急カーブで増加中 その理由は何?

前立腺がんの原因には、加齢によるホルモンバランスの乱れ、動物性脂肪や動物性タンパク質の多い食事などが考えられおり、父親や兄弟など家族に患者がいる場合もリスクが高くなります。これまでに日本人には少ないがんでしたが、高齢化や食生活の欧米化にともない、患者数が急速に増えていきます。

あるようです。実は、欧米で前立腺がんの患者数が多いのは、摂取カロリーの高さも一因と考えられています。加えてPSAという腫瘍マーカーを使い、がんの疑いがあるかどうか簡単に測定できる方法が普及しているためでもあります。日本で増えている理由のひとつも、直腸診や超音波検査では発見することが難しかった早期がんを、PSA検査で見つけられるようになったからといえるでしょう。

治りやすいがんですから 早期発見に努めましょう

ごく少量の血液があれば測定可能なPSA検査は、通常の血液検査と合わせて行うことができます。PSAとは、前立腺の病気になるると血液中に流出するタンパク質の一種で、がんが進行するにつれて、数値が徐々に上昇していくものです。

PSA値が正常値を超えて高いとき、専門医による直腸診や超音波検査に移ります。これらの二次検査で前立腺がんが疑わしい場合、さらにがん細胞の有無を調べる針生検を行い、確定診断を下します。

前立腺がんは、がんの広がりや進行度によって、限局がんから転移がんまで4段階の病期(進行度)に分けられ、それぞれ治療方法が異なつてきます。早期の段階では手術や放射線療法が中心となりますが、早期の段階で発見されたケースのほうが、治療後の生存率も高く、予後の回復も順調

PSA検査で
早期発見!!



なのは言うまでもありません。前立腺がんは、ほかの臓器のがんよりゆっくり進行するため、早めに発見すれば比較的治りやすい病気なのです。

**年だから肥大症だろうと
放置しないで**

前立腺の病気の中でもっともポピュラーなのが、中高年の男性に多い前立腺肥大症です。「尿が出にくい」「トイレが近い」といった症状は前立腺がんと似ているものの、周囲に広がったり、転移したりするような悪性腫瘍ではありません。

そのため、排尿障害などの症状があるとき、「年だから前立腺肥大症だろう」と高をくくって、そのまま放置しているうち、がんが進行してしまつケースがあるようです。前立腺肥大症の手術をしていて、たまたま早期のがんが発見されることもあり、念のため泌尿器科での診察をお勧めします。

いずれにせよ、50歳になったら毎年1回、PSA検査を受けるようにしましょう。以前正常値だった人も安心できません。また前立腺がんを予防するため、バランスの良い食事や適度な運動を心がけるようにしましょう。